

保護者の皆様へ

家庭数

令和3年11月19日
(2021年)

吹田市立吹田第六小学校
校長 田淵 久美子

令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

全国の児童・生徒の課題改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、児童・生徒の学力及び学習状況の改善を図るために、6年生を対象として、『全国学力・学習状況調査』が本年5月に実施されました。9月上旬には自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田市教育委員会のホームページに掲載されております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度の実施教科は国語・算数の2教科ですが、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

全国における調査を客観的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取り組みとなるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願い致します。

1 教科に関する調査結果の分析

(1) 国語

《概要》

★すべての領域で全国値を下回っている。

《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

全国値を下回っている

- ・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことに課題がある。
- ・文の中における主語と述語の関係を捉えることに課題がある。
- ・文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることに課題がある。

話すこと・聞くことについて

全国値を下回っている。

- ・目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることに課題がある。
- ・目的や意図に応じ、資料を使って話すことに課題がある。

書くことについて

全国値を下回っている。

- ・目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

読むことについて

全国値を下回っている。

- ・目的に応じ、文章と図表とを結びつけて、必要な情報を見つけることに課題がある。
- ・目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することに課題がある。

◇国語科における成果と今後の指導改善点

「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、知識及び技能の観点となり、基礎学力に課題があります。基礎学力を身に付けるためには、まず相手の話を正しく聴くこと、自分の思いを正確に伝えることが重要です。

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書くことに課題があります。また、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することに課題があり、文章を読み取る力の育成が必要です。

どの領域においても無解答率が高く、特に記述式の問題では目立ちます。

上記3点を国語科における重点課題と考え、以下の改善を図ります。

言語活動や表現活動を豊富に取り入れ「言語力」の向上を図るとともに、充実感や達成感から自信につながるような、教育活動を行います。

モジュール学習（15分間の言語活動）や、SUN ネット端末（iPad）を、より効果的に活用し、児童自身が自ら学びたいと感じる授業改善に努めます。

「書くこと」への抵抗がなくなるよう、スモールステップから始め「書くこと」の習慣を身に付けさせます。また、事実・感想・意見を区別して書くことができるように育みます。

(2) 算数

《概要》

★すべての領域で全国値を下回っている。

《各領域における成果と課題》

数と計算

全国値を下回っている。

- ・二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述することに課題がある。
- ・示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することに課題がある。
- ・少数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された少数に当たる理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

図形

全国値を下回っている。

- ・三角形の面積の求め方について課題があり、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述することに課題がある。

測定

全国値を下回っている。

- ・条件に合う時刻を求めることはでき、全国値をやや上回っている。
- ・複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることに課題がある。

変化と関係

全国値をやや下回っている。

- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができ、全国値とほぼ同じである。
- ・速さを求める除法の式と商の意味を理解することに課題がある。

データの活用

全国値を下回っている。

- ・棒グラフから、数値を読み取ることや項目間の関係を読み取ることができ全国値をやや上回っている。
- ・データを二次元の表に分類整理することに課題がある。
- ・帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がある。

◇算数科における成果と今後の指導改善点

「測定」領域での時刻を求める問題、「データの活用」領域での棒グラフから数量を読み取る問題では、無解答が無く、正答率も全国値を上回る結果となっています。この問題は、文章だけではなく、時計の絵やグラフ図で、提示しています。このことから、視覚支援があれば、前向きに取り組む姿勢が見られ、文章のみの場合には意欲も薄れ、大きな課題があると考えます。

数学的に記述(説明)する力に課題があります。
理論的・発展的に考察して数学的に表現することが必要です。

「図形」領域に課題があります。図形を構成する要素などに着目し、面積の求め方について筋道を立てて説明できることが重要です。

「データの活用」領域に課題があります。データに基づいて判断する統計的な問題解決方法を知り、その方法で考察していくことが大切です。その際、データを分類整理し、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取る力が必要です。

上記4点中、前半2つを算数科における重点課題と考え以下の改善を図ります。

論理的な思考が身につくよう、授業において、児童が多様な考え方に触れていく機会をより一層つくっていきます。

児童の意見交流が活発になるよう、さらなる問題解決型学習の充実を図ります。

どの学年も数学的な思考力・判断力・表現力を育成するため、全学年で系統的な授業づくりに取り組んでいきます。

2 生活習慣や学習環境「質問紙調査」に関する結果

《教科・学習について》

国語科・算数科における意識を問う設問

全国値を上回っている設問

「国語の勉強は大切だと思いますか」

「算数の勉強は好きですか」

全国値をやや上回っている設問

「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」

教科学習全般における意識を問う設問

「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、全国値をやや上回っている。
「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、全国値を下回っている。
「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、全国値とほぼ同じである。

《学習環境・生活環境について》

「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか」の設問では、全国値を低く、不安に感じている児童は少ない。
「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか」では、全国値を下回っていて、課題がある。
「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」の両方が、全国値を下回っていて、課題がある。

「学校に行くのは楽しいと思いますか」では、全国値を下回っている。
「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」では、全国値とほぼ同じである。

「自分にはよいところがあると思いますか」では、全国値を下回っている。
「将来の夢や目標をもっていますか」では、全国値を下回っている。
「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」では、全国値を下回っている。

「人が困っているときは、進んで助けていますか」では、全国値を下回っている。
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、全国値を上回っている。

「朝食を食べていますか」の設問では、全国値とほぼ同じである。
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」では、全国値を上回っている。
「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」では、全国値をやや下回っている。

「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の設問では、全国値を下回っている。

「学校の授業時間以外に、普段(月曜～金曜)1日あたりどれくらいの時間勉強しますか(学習塾や家庭教師等に教わる時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、1時間より少ないという消極的回答が多く、そのうち全くしないという回答もあり、課題がある。

「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の設問では、全国値を上回っている。
「普段(月曜～金曜)、1日当たり、どれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」では、4時間以上との回答が、全国値を上回っていて、課題がある。

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、全国値を上回っているが、「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがありますか」では、全国地を下回っている。

3 今後の取り組み

「聴いて 考えて つながる」～資質・能力を高める学び方の研究～を推進します。

「言語力」である「聞く・話す・書く・読む」の力は日常生活において重要です。教科を問わず、授業の中で話し合い活動や書く活動、発表の機会を増やし、言語活動の充実を図ります。

コロナ禍中、児童たち自身が主体となり、異学年交流や児童会行事をつくり、実践してきたことで、自主性と責任感が育ってきたと感じます。今後も継続していきます。

新聞記事やインターネット情報・書籍等、複数の情報を読んで、活用できる力を育成するため、環境を整えます。

デジタルシティズンシップ教育等、学校生活全般を通して、ルールの大切さを考えさせるとともに、規範意識を高め、生活の中で活かしていく力を育みます。

多様性教育を柱に、教育活動全体を通して、自尊感情や人権意識を高め、いじめを許さない仲間づくりをめざしてきました。一定の成果があらわれてきたと感じています。今後も友だちとともに学び合い、喜び合う素晴らしさを実感させ、豊かな心・思いやりの心を育みます。

道徳科の授業やいじめ予防授業、セサミストリートカリキュラムの充実と研究を図ります。

家庭学習の習慣が身に付くよう、ご家庭と連携しながら「学びに向かう力」の育成を図ります。また、活字に慣れ親しみ、文章内容や文章表現の面白さに気付くように読書活動の推進を図ります。

「あたたかい聴き方・やさしい話し方」につつまれた学校づくりをめざします。